

B52撤去、基地核基地撤去、総合労仲布今粉碎をめざす

2.4 沖縄県労協ゼネストに呼応し

市大

スト、御堂筋デモで斗え!!

大阪市立大学学友に呼びかける!!

我々が、現在、世界でまき起っている激動の渦中に生るにも拘らず、それらを直視すること敢て避けて、自己保身の為の試験勉強に没頭している時、70年に向けて沖縄では、日本政府独占、米軍当局に対して全面的な対決の火ぶたが切られて落たとされ、

敗戦後25年間、不当不法な米軍占領下において、全く人間性を踏みにじられ、それに対して熾烈な闘争を推進してきた県民は2月4日

心を打ちのめられ、全県ゼネストで総決起する。

「B52即時撤去」、原潜寄港阻止、基地撤去、即時無条件全面復帰、これらスローガンとして。

現地米軍当局が公布した、これを全面的に弾圧する「総合労仲布令」と県民は憤激を以て答え、三月迄施行を延期させた。

「命を守る県民共闘会議」議長島中氏は「延期は問題ではない。白紙撤回が当然である。我々はB52即時撤去を目指してあくまでもゼネストで闘う」と力強く宣言した。

学友諸君!! 苟くも我々が、「平和」なり「沖縄返還」「ベトナム反戦」を言うのは、憐れみや、同情でそれを口にするのではないはずである。今、それが、之、4沖縄全県ゼネストに我々が如何なる態度をとるのかということに問われている。しかも、佐藤は、本年の最重要な課題として、「沖縄、安保」「大学をあげ、その強権的に治安的、政治的に自らの意図を強行に貫徹せんとしている。そのような状況の中でこれらの問題を真剣に受けとめ、真に沖縄県民と連帯して沖縄返還闘争を推進しなければ70年沖縄の斗いは孤立し安保の最重要環「沖縄」は、敵対独占の意図通り「夜付き返還」されるだろう。我々も又、沖縄全県民と連帯し最大限の実力斗争で立ち上がり、総合労仲布令と共に果敢に御堂筋デモを斗い抜こう!!

学友に責任を持つ政策タクルーとして

我々は、此々に大衆的に自己批判する

我々革新タクルーは、昨年の4、26斗争の時より、一早く、沖縄の持つ重要性を直視していく中で、ベトナムー沖縄ー安保の課題に取り組んできた。だからこそ、6・15、8・6、10・21、11・7斗争の中でも、沖縄返還斗争の位置付けの下に、学友諸君と共に闘ってきた。しかしながら、全日学生運動が、政治主義的偏向から、今度は、学闘主義へと埋没していく中において、我々は、明確に批判的を持ちながら、客観的にはそこへ落ち込んでいたのである。

我々が、ここに、之、4市大ストを提起すること、一定程度無責任性を持つことを否定することはできない。何故か、と早く提起しなかったという批判に対しては沈黙する他ない。しかし、之、4ゼネストの下史的意義、沖縄県民の自己の生命を懸けている熱意に、本土の人間として何を言ふべきかという原泉に帰って、この方針を提起したのである。学友諸君!! 沖縄を孤立させてはならない。

革新タクルー